



# 米沢有為会 仙台支部だより

第 24 号

令和2年12月19日

発行者

(公社)米沢有為会仙台支部

支部長 甲 國信

仙台市青葉区角五郎2-6-21

TEL 022-222-4790

## 寮生 (他に 4 人が在寮) と新しい寮母さんを迎えて 2020.11.1

### 有為会の近況

仙台支部会員の皆さまにはコロナ禍のなかがお過ごしでしょうか。今年の流行語大賞に「3密」が選ばれたように、まさにコロナに振り回された1年でした。支部総会・講演会・懇親会、秋の芋煮会は開催できず、会員同士、会員と寮生との交流が一切できなかったことは甚だ残念です。来年は通常の活動ができるよう、早期の収束を祈ります。

**仙台興譲館の近況**.. 令和2年度の寮生募集では、2名の新入寮生を迎えることができ、現在の寮生数は定員15名に対して10名です。来春は5名が卒業する予定なので、もし入寮者がゼロであれば、定員の3分の2にあたる10名の空きが出て、寮生の一人当たりの共通経費が増加し、運営上厳しい状況になります。コロナ禍により経済が落ち込んでいるからこそ、有為会の寮を利用してもらいたいものです。育英事業部は置賜の高校に対して生徒への周知、自治体へは広報誌の掲載依頼を行なっていますが、**会員の皆様、特に置賜在任の会員におかれましては、周囲の受験生のある家庭に興譲館寮の存在をご案内いただき、応募を促してください**ようお願いいたします。平成25年の新入

寮生9名が応募を決めた理由は、ほとんどが親の勧めでした。

**新型コロナウイルス禍の寮生活への影響**.. 夏休み以降の大学の授業は、オンラインが主となっています。勢い、寮生は部屋で過ごす時間が増え、食堂など共通スペースに寮生の姿は見かけません。アルバイトにも影響がでて、アルバイトを控えている寮生がほとんどです。就活中の寮生は、新しい面接方法に対応しなければならず、大きなストレスがかかったことと思います。また全員が決まったと聞いてはいませんが、早く全員の行先が決まり、就職という人生における一大イベントが、運悪くコロナ禍の年に重なってしまった不運を無事に乗り切ってくれることを願っています。

**新寮母の着任**.. 14年に渡り寮生の世話をしていたが、4月上旬に退職された小野寺真知子寮母の後任が9月になってようやく決まり、10月から勤務しています。新寮母の桶川幸江さんは63歳、調理師、食生活指導士、看護助手の資格を持ち、住み込みで勤務しています。10月5日から出食が始まり、寮生の栄養不足の心配はなくなり、寮生諸君は半年の間、寮母不在によく耐えてくれました。寮関係者

(有為会本部より送られた新型コロナウイルスに対する緊急注意事項)

**『仙台興譲館寮寮生に対する緊急注意事項』 2020.4.1**

- ・外出時のマスク着用(他人に移さない心構え)
- ・寮に戻った際の石鹸を使った手洗いとうがいの励行
- ・食堂で各人1m離れた位置での食事
- ・寮での酒を伴う懇親会の自粛
- ・夜の街の酒場には行かない、自粛する。
- ・高齢の寮母さんとの会話に注意する(マスク着用)。

**仙台興譲館寮館長**

**寮内掲示**

も安堵しています。  
 新寮母受け入れに当たって、滝口館長が寮母室の整備を行い、また、加川理事にご尽力いただき、女子専用トイレを、和式トイレを洋式に改修しました。お二人に感謝いたします

(仙台支部長 甲 國信)

**スウェーデン**

**ウプサラ大学留学記**

**東北大学経済学部4年 梅沢謙吾**

東北大学経済学部4年の梅沢謙吾です。私は、大学2年から3年(2018年8月から2019年6月)にかけて、スウェーデンのウプサラ大学という、東北大学の大学間協定校に交換留学に行っておりまして。今回はその報告をさせていただきます。

**留学の目的**

留学の目的としては、大きく2つありました。一つ目は、異なるバックグラウンドを持つ人たちとの交流を通して、知見を広げることです。東北大学で国際交流に注力してきた中で、海外にある程度長い間住んでいる人々と関わるという経験を積みたいと思うようになりまして。二つ目は、国際的な視野を持つて自分の専門である経済学・経営学を学ぶことです。1年生の頃に参加していた大学のセミナー等で、グローバル人材として世界を股にかけて活躍

されてらっしゃる方々のお話をお伺いする機会がありこのような動機を持ちました。特に、スウェーデンは人口規模が1000万人ほどしかない小国でありながら、IKEA, Spotify, H&Mなどグローバルに展開している企業が比較的多く興味を持ちました。

**授業について**

前期は、大学が強みとしていた持続可能な開発について学び、企業の社会的責任などを考える機会としました。

この授業では実際にグループでサステイナビリティ関連のビジネスアイデアを作りプレゼンテーションを行いました。後期は、国際ビジネスの授業を通して、企業が国境を越えて活動していくうえでの戦略や、グローバルな市場で財やサービスを提供していくために考えるべき事柄についての理解を深めることができました。マーケティングの授業では、シミュレーションソフトを用いて、チームごとに携帯電話を製造する一つの会社を担当し、一年ごとに、どのような製品を開発するか、どのようにマーケティング活動を行うか、ま



**マーケティングの授業**

たそれらにどのように予算を配分するかを決定しました。その中で、マーケティングにおける重要な概念に対する理解を深めることができました。日本の大学は大人数で受ける授業が大半かと思えます。一方で、現地では少人数かつグループワーク中心のものが多く、最初は慣れるのに必死でしたが、徐々にグループの中でバリエーションを発揮できるようになってきました。

生活全般

コリドーメイトが12人(アジア系3人・アメリカ1人・ドイツ2人・オランダ2人・アイルランド1人・スウェーデン3人)みたいな内訳でした。キッチンや共有スペースを共に使っていました。様々な国から来た人たちと日常的にコミュニケーションをとる機会があり、文化や価値観の多様性を感じることができました。また、パーティーなどを通して新しい人と話す機会が多く、非常に刺激的な生活を送ることができたと思います。課外活動としては、Rethinking Economicsという現地の大学の勉強会に参加したり、週末に大学のドッジボールクラブに参加したり、ネーションと呼ばれる大学生の自治組織で友達とスポーツを楽しんだり、お茶やビールを共にしたりすることで、充実した生活を送ることができました。

有為会仙台支部  
だより第23号  
の訂正

P.5 2段目  
梅沢謙吾君の学年  
3年⇒4年に訂正



寮での交流



寮での交流

旅行について

私は、留学中に12か国(ポーランド・ウクライナ・モルドバ・ルーマニア・ブルガリア・トルコ・ノルウェー・イギリス・ベルギー・オランダ・デンマーク・スペイン)を訪れ、スウェーデン以外の国々の文化や歴史も学びました。旅をする中で、ホテルで友達を作って観光地を訪問し、また、ローカルの人と話すことで知見を広げることができたと思います。留学中は留学先以外の国に



ドッジボール部



サグラダファミリア (スペイン)



ワッフル店の前の小便小僧と (ベルギー)

も足を運んで、違いを感じることでそれぞれの国への理解を深めることができると感じました。

**得られた成長**  
 留学を通して得られた成長は大きく3つあります。一つ目は、挑戦する姿勢が向上したことです。留学中に様々なコミュニティに足を運んで活動し、



キルナ (スウェーデン)

物事に挑戦する障壁が低くなりました。帰国後は就職活動の他に、プログラミングの勉強をしたり、国際交流ハウジングのアンバサダーとして活動したりしました。また、留学生に日本語を教えるチューターとして活動しました。このような活動を大学にも認めていただきグローバルリーダーに認定されました。二つ目は、知見が広がったことです。留学全体を通して、様々な人と話す機会が多く、日常的なことはもちろん、政治経済や文化についての話題を共有することができました。そしてこれは日本についてより客観的に考えることにつながったと思います。三つ目は、語学力の向上です。英語に関しては留学前から注力しておりましたが、スピーキングとリスニングが特に向上したと感じております。帰国後も海外の協定校の授業を受講したり、留学生と一緒にプロジェクトを進める授業を受講したりして、更なる研鑽に励んでおります。

**(在寮生)**

**仙台支部年間行事予定**

※仙台興譲館行事

※12月12日 (土)

忘年会 (寮生会主催) (会場: 仙台興譲館) ↓ **中止**

1月10日 (日) 第二回入寮面接

※1月14日 (木) どんと祭

↓ **不参加**

※1月16日 (土)

新年会兼卒業生歓送コンパ (寮生会主催) (会場: 仙台興譲館) ↓ **中止**

2月 第3回理事会

※2~3月 温泉旅行又は食事会

2月28日 (日) 第二回入寮面接

予約と通常

3月11日 (木) 第三回入寮面接

3月22日 (月) 第四回入寮面接

※3月 末日 寮生総会

**会員の異動**

**新入会員紹介**

鹿又桂司 賛助会員

仙台興譲館寮生 南陽市

**会員の訃報**

愛知絢子さん 10月5日に逝去されました。昨年は懇親会にご出席いただきました。ご冥福をお祈りします。

**寮の庭の植物 スエコザサ①**

寮の南側の広瀬川の河原は仙台の芋煮会のメッカであるが、今年は新型コロナウイルスの影響のため少ない。毎年10月に実施されるはずであった寮主催の芋煮会もできなかった。

10年ほど前の芋煮会の時、河原のわきで採取したササの話をしたことがあった。それはスエコザサという和名で葉が少し小さいアズマザサの仲間である。スエコ「寿衛子」というのは植物学者牧野富太郎(1862~1957)の妻で、54歳で亡くなった妻の名前を1927(昭和2)年、寮のすぐ近くの山居沢で牧野が採集した標本をもとに和名と学名を付けたものである。ラテン語の学名も **Sasa suwekoana** と妻の名をそのまま採って命名している。

紙面も尽きたのでこの続きはコロナが終息した後の号に写真も入れて書きたいと思います。(続く)

(仙台興譲館館長 滝口政彦)

**編集後記**…支部だよりに在寮生の投稿は初めてです。新型コロナウイルスの早い終息を願って、皆様よいお歳をお迎えください。

編集責任者 滝口政彦